

第5回あわら市総合振興計画審議会会議録（要旨）

1 日 時 令和8年1月7日（水） 19：00～20：30

2 場 所 あわら市役所正庁

3 協議事項 （1）第3次あわら市総合振興計画（案）について

- 4 資 料
- ・ 会議次第
 - ・ 第3次あわら市総合振興計画（案）（資料1）
 - ・ 今後のスケジュールについて（資料2）
 - ・ 前回の審議会における意見に対する対応（基本計画部分）（追加資料1）

5 出席者 委員：桑原 美香（会長）、赤尾 政治（副会長）、笹原 修之、市野 三郎
木元 久、笹岡 太久磨、坂野 靖子、坂井 寿範、土田 ゆり子、西森 幸作
渡邊 一幸、加藤 秀信、前田 健二、宮川 千乃、宗石 宗康
吉田 純一（顧問）（敬称略）

市：渡邊 清宏（創造戦略部長）、西正 真琴（政策広報課長）、多賀 太郎（政策広報課長補佐）、南 昇兵（政策広報課主査）

委託業者：(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 伊藤 拓人

6 欠席者 東川 継央、山形 徳義、山口 透、田嶋 敏、堂庭 信男（敬称略）

7 会 議

・ 会長あいさつ

新しい年を迎え、本日は委員が顔を合わせる最後の審議となる。これまでの審議を通じて、委員の皆様から多くの意見をいただいたことで、計画案は良いものになってきていると感じている。本日は最終的な確認の場となるが、パブリックコメントの前段階として、さらに内容を磨き上げるために、率直な意見をいただきたい。

・ 事務局より事務連絡

本日の審議会について、最後の審議会となる。前回の審議会委員からいただいた意見に対する対応についての説明を中心とする。今回の協議内容について、承認いただければ、この内容でパブリックコメント案としてあげさせていただく。

・事務局より協議事項（１）「第３次あわら市総合振興計画（案）について（資料１）」説明
（計画案の一体化と目次の追加）

パブリックコメント実施に向け、序論、基本構想、基本計画を一体化した。新たに目次を追加し、本文中の難解な用語には※印を付して、資料編の用語解説を参照できる旨を明記した。

（序論の修正箇所）

- ・ 前回のご意見を踏まえ、３ページに「第４節 総合振興計画に基づく評価及び公表について」という項目を追加した。
- ・ ４ページ～１０ページの「前計画（第２次総合振興計画）の振り返り」について、読みやすさを重視し、計画の序盤（第２章）へ移動し、現行計画の体系図を追加した。また、前回の指摘通り、現行計画の目標を設定した際の基準となった平成２６年度の数値を追加した。
- ・ １７ページの人口将来展望について、計画全体に関わる事項であるため、基本計画内から序論部分へと掲載場所を変更した。
- ・ 「第２節 市民の声」について、２４ページ～２６ページに小中高校生向けアンケートの結果（３設問）を追加し、２７ページにワークショップの実施概要（回数、テーマ、参加人数等）をまとめたページを新設した。
- ・ ３２ページ～３４ページの「第５章 あわら市の課題と今後の施策の柱」について、SWOT分析の４要素（強み・弱み・機会・脅威）が、５つの施策の柱のどこに該当するかを点線と括弧書きで明示し、分析結果と施策のつながりを視覚的に調整した。

（基本構想の修正箇所）

- ・ ３８ページ～４２ページのそれぞれの施策の柱の説明について、「１０年後の目指す姿」を視覚的にわかりやすく調整した。

（基本計画の修正箇所）

- ・ ４４ページ～４６ページの基本計画の共通テーマについて、「(1)達成した方向性（目標）」と「(2)取組の方向性（手段）」に分類するとともに、SDGsのそれぞれの目標の説明を追加し、５２ページ以降の基本施策ごとの説明ページに該当するSDGsのアイコンを追加した。
- ・ ５０ページ～５１ページに「基本計画の見方」を説明するページを追加した。
- ・ KPI（重要業績評価指標）について、数値が増えた方がよいもの、減った方がよいもの、現状維持を目標とするものという３つに分類されるので、どの方向を目標としたものなのかを矢印で示すように調整した。

（前回審議会における意見への対応状況報告）

追加資料に基づき、報告

（あわら市まち・ひと・しごと創生総合戦略との統合について）

- ・ 地方創生に関連する「総合戦略」を本計画の前期基本計画と一致させ、一体的に推進する構成とするため、その内容を説明する章を追加した。

(資料編について)

- ・資料編には 24 の基本政策に関連する統計データや用語解説を掲載した。

(前回審議会に参加いただけなかった委員意見について)

- ・人口減少に対する対策が大切であり、子育て家庭の支援、住宅取得に関する支援、Uターンの支援などに力を入れる必要がある。
→計画全体を通して人口減少対策に取り組んでいく。
- ・伝統文化の継承困難。指導者の高齢化、減少など。
→所管課、事務局としても若い世代の参画、指導者の育成は重要だと認識している。情報発信も不可欠である。59 ページに方向性を記載し、これに基づき推進していく。

・議題に係る質疑応答

(会長) 修正いただいた箇所の説明をいただいた。前回の意見の中で、反映されているかどうかお聞きしたい。全庁的に協議をいただいたとのこと。全体を通して、質問はないか。

(委員) まとまっていて読みやすいと思うが、5 ページの「第 2 節 前計画（第 2 次総合振興計画）の総括」について、総括というと全体をまとめることだと思われるので、action ごとの成果と課題だけでなく、計画全体のまとめを記載した方が良い。

誤字について、45 ページの SDGs 推進は②ではなく③だと思われる。

(事務局) 前計画の総括について、課題整理のために action ごとに総括して、計画の前段の方で、それらに基づいて総括的にまとめていくという構成をとっているので、ご理解いただきたい。

本日承認いただいたものはパブリックコメントにかけるが、誤字等校正、修正をしているので、ご意見いただけるとありがたい。

(委員) 66 ページの「基本施策 8 観光」に関連して、あわら温泉として温泉文化を発信したり、無形文化財登録の動きがあったりする。計画は令和 12 年度までであるので、その間どういう取組を行うのか。

(事務局) 無形文化財の登録の動きは把握しているが、計画にはあわら市として取り組んでいくことを記載している。登録に向けて県の全体的な動きなどを踏まえた具体的な取組は分野別計画で記載していきたい。

(委員) 温泉に関しては、あわら市がリーダーシップをもって取り組んでほしい。

77 ページに「要配慮者名簿」とあるが、従来では「要支援者」と呼ばれていた。正式名称があると思うので、正式名称を使用してほしい。

(事務局) 確認の上、正式名称に修正する。

(委員) 従来やっていることが知られていないと思う。住民がわかるような行動計画としてカバーし、実行できるようなプランをお願いしたい。区長会についても、今年の1月1日からあわら市区長会連合会に名称が変わっている。区長会としても区長が行政の取組をしっかり理解して取り組んでいくという姿勢でいるので、よろしくをお願いしたい。

(事務局) ご意見に対して真摯に対応できるようにしたい。

(会長) 全体を通して、文言、様式ご意見ないようでしたら承認いただいたとのことでよいか。

・協議事項の承認

→意義なし、承認

(会長) 全体を通して吉田顧問にお話をお伺いしたい。

(顧問) 5ページからの「第2節 前計画の総括」について、現在進行中ではあるが、報告書の記載としては過去形にしてはどうか。表と文章が一致していない。表の中でもある程度目標を達成したものとそうでないもの、どちらも判断できないものといった評価の項目として○や×とかなどがあってもよいのではないかと思う。

目次を見て気になったのが、目次の第3章と第4章の間を開けなくてはいけない。第2編基本構想の第1章は「目指すまちの姿」、それに続く第1節は「あわら市の基本理念」となっているが、あわら市を付ける箇所を逆にして、第1章を「あわら市を目指すまちの姿」とした方が良い。また、第3編の基本計画では、基本施策1～24までであるが、施策の柱1、柱2ごとに目次でも分類した方が良い。資料集にも同じことが言える。資料編も柱ごとに表現した方がわかりやすい。目次の最後で、「※は「資料編」の「第2節 用語集」に記載の用語を示します。」とあるが、「本文中にある※を付記した用語については・・・」と修正した方がわかりやすい。

計画をつくるだけで終わりではなく、これが始まりである。役所も市民もできるだけ広めて、理解してもらって、計画が5年間の間にどうすれば進んでいくか、これから注力して頂けたらと思う。

(事務局) 総括の表現、進捗状況について対応できるか確認し、できる範囲で対応する。目次の修正等も行う。※の文章表現の修正、資料編も柱ごとの表示も行う。

(会長) 今後どうやってプランを公にしていくかという意見もあったが、計画についての質問はないか。なければ、本日の協議事項はこれで終了とする。

(今後のスケジュールについて)

1月上旬から2月の議案としてのスケジュールを簡単にお示しする。本日が5回目の審議会
で最終回。来週の13日から27日までパブリックコメントを実施する。2月9日に市長への答
申、その後3月議会へ議案として提出する。

(その他)

・事務局から報酬の振込の案内

・創造戦略部長あいさつ

審議会の皆様にはお力添えいただき感謝する。市民意見、専門的知見からの意見をいただい
た。本計画を確実に実行していきたい。市民が住んでよかった、住み続けたいと思ってもらえ
るようにしていきたい。